

第 3 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 3 号)

1 平成8年9月13日（金曜日）午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 23名

2番 本橋 亮一
4番 小幡 一宏
6番 鈴木 順子
8番 増田 基彦
11番 秋山 光章
13番 脇田 安保
15番 山崎 雅己
17番 岩村 勝弘
19番 川名 正二
21番 山中金治郎
23番 石井 昌治
25番 飯田 義男

3番 三上 英男
5番 忍足 利彦
7番 斉藤 実
9番 島田 保
12番 植木 馨
14番 永井 龍平
16番 鈴木 忠夫
18番 日下 君敏
20番 神田 守隆
22番 榎本 春光
24番 福原 勤

1 欠席議員 2名

1番 辻田 実

10番 宮沢 治海

1 出席説明員

市長 庄司 厚
収入役 永野 修
総務部長 鈴木 完二
経済環境部長 小沼 晃
水道課長 谷貝 実

助役 小幡 清之
企画部長 寺嶋 清
市民福祉部長 渡辺 富雄
建設部長 鈴木 信一
教育委員会
教 育 委 員 会 長 高橋 博夫

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一
書記 四ノ宮 朗
書記 鈴木 達也

事務局長補佐 鈴木 哲
書記 島本 一樹
書記 松浮 郁夏

1 議事日程（第3号）

平成8年9月13日午前10時開議

- 日程第1 {
- 議案第57号 館山市行政手続条例の制定について
 - 議案第58号 工事請負契約の締結について
 - 議案第59号 調停について
 - 議案第60号 調停について
 - 議案第61号 調停について
 - 議案第62号 調停について
 - 議案第63号 調停について
 - 議案第64号 調停について
 - 議案第65号 和解について
 - 議案第66号 館山市母子家庭・父子家庭等医療費等の助成に関する条例の制定について
- 日程第2 {
- 議案第67号 平成8年度館山市一般会計補正予算（第2号）
 - 議案第68号 平成8年度館山市下水道事業特別会計補正予算（第2号）
 - 議案第69号 平成8年度館山市水道事業特別会計補正予算（第1号）
- 日程第3 {
- 請願第8号 消費税率引き上げ反対を求める請願書
 - 請願第9号 「義務教育費の国庫負担制度の堅持に関する意見書」採択に関する請願書
 - 請願第10号 「教育予算の増額に関する意見書」採択に関する請願書
 - 請願第11号 「介護保険法案」の国会上程に反対し、国民と自治体の意見尊重を図る意見書の提出を求める請願書

開 議 午前10時03分

◎議長（山中金治郎君） 本日の出席議員数23名、これより第3回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（山中金治郎君） 日程第1、議案第57号乃至議案第66号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

◎議長（山中金治郎君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

20番議員神田守隆さん。御登壇願います。

（20番議員神田守隆君登壇）

◎20番（神田守隆君） 議案の第57号館山市行政手続条例の制定についてお尋ねをいたします。

申請に対する審査及び応答についてとして、第7条では行政庁は、申請がその事務所に到達したときは遅滞なく、当該申請の審査を開始しなければならないと定めています。今までは、行政指導の一環として申請があってもこれを正式に受理せず、事実上棚上げにして、その間にいわゆる行政指導として実質的に関係者間の合意を促し、紛争の発生を未然に防止するなどの措置をとってることが多々見られました。第三者から見れば、まことに奇妙なもので、不明朗、不透明そのものということもあろうかと思いましたが、同時に当事者間にとっては大変意味のあることというケースもあったわけであります。こうしたやり方は、これからはこの条例によって許されないことになると思うのでありますが、いかがお考えになりますか。

次に、複数の行政庁が関与する処分の扱いについて、他の行政庁への関連する申請が審査中であることをもって、みずからすべき審査を殊さらに遅延させてはならないとされています。これまでは、開発行為などで県の許認可と市の許認可のいずれもが必要なケースが多々あろうかと思えます。県の判断が出ていないので、他の行政庁の判断をもってみずからの判断の基準にするというやり方が見られました。こういうあり方は、基本的に排除されるこ

とになります。他の行政庁との協力共同の問題もありますが、基本的には市自身の判断力をきちんとつけていかななくてはならないということではないかと思うのでありますが、いかがお考えになられますか。

次に、議案第59号ないし65号の調定に関してお尋ねをいたします。それぞれ和解金として250万円を支払うとのことですが、この金額はどのような根拠のもとで算出されたものなのですか。250万円というこの金額の意味について御説明をいただきたいと思います。

次に、議案の第66号館山市母子家庭・父子家庭等医療費等の助成に関する条例の制定についてお尋ねをいたします。今回これまでの母子または父子の家庭に対する医療費等の助成に関する条例を廃止して、この条例を制定しようとするものでありますが、今回廃止になる条例とこの条例との相違点は何でありましょうか。入院給食費への助成は、引き続きこの条例のもとでも保障されることになるのでありましょうか。

次に、資格のある対象者はこの条例によってこれまでの条例に比べどのようにになりますか、御説明をいただきたいと思います。

次に、この条例と同様の制度として乳幼児医療費に関する助成条例や障害者医療の助成条例がそれぞれあるわけですが、それぞれ対象となる要件が異なっていますが、人によってはいずれの制度の該当するというケースもあるかと思います。例えば母子家庭の子で6歳未満というようなケースがありますが、それぞれの医療無料制度が適用になると思うのでありますが、こうした場合どのように措置を考えておられますか、その点についてお聞かせいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

議案第57号に関します第1点目、第7条の申請受理についての御質問でございますが、本条は市民あるいは事業者等からの許認可等を求める申請につきまして、市の機関は遅滞なく審査を開始することにより、申請処理を迅速

に行うことを規定したものでございます。したがいまして、本条例の施行後におきましては、受理という概念がなくなるものでございます。

次に、第2点目、第11条の複数の行政庁が関与する処分についての御質問でございますが、本条は市の機関相互あるいは市の機関と国、県など他の機関が関係する申請の場合におきまして、関連する申請が他の行政庁において審査中であるということを理由に処分を殊さらに遅延させてはならないこと、また市の機関は相互に連絡をとり合い、審査の促進に努めるべきことを規定したものでございます。

次に、議案第59号に関します和解金の考え方についての御質問でございますが、本件土地は病院建設用地として貸し付けが予定されており、早期の解決を図るため、館山簡易裁判所へ調停の申し立てをし、調停委員の指導のもとで話し合いを進めてまいりました。この結果、双方が歩み寄り、合意に達した金額でございます。

次に、議案第66号に関します第1点目、従来の条例との相違点についての御質問でございますが、所得制限の緩和によります受給対象者の拡大等でございます。

なお、入院時食事療養費も従来と同様、助成対象としております。

第2点目、受給対象者についての御質問でございますが、663名を見込んでおります。

第3点目、乳幼児医療との競合についての御質問でございますが、本人の選択により助成いたします。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 行政手続条例の関係でありますけれども、従来いわゆる受理——市役所に書類を提出しても受理しないとか受理するとかという、非常に住民から見るとわかりにくいことであつたのが、今回はそういう概念がなくなったということで、到達ということですから、役所へ出したけれども、係長の机の中にしまってあつてわからなかったとか、そういうようなことがたとえあつたとしても、それは受理という問題がなくなった以上は、

それは明らかに到達と——既に到達しているということで、その時点での判断になるから、それで行政の責任は当然出てくるということになる、こういうことではないかと思うんですが、この到達というのは郵便で来たらば郵便で通常到達したという、その日をもってということになるんでしょうから、そういう意味だというふうに理解してよろしいかどうか。

それから、2つ目の問題は、相互の県と市とか、ほかの関係機関との関係の問題で、市自身の判断力といいますか、これを相当ほかの役所と今やっていることだからという言いわけが事実上できないと、相互に協力したり連絡をとったりするということは当然のことなんですけれども、しかし市自身がその問題についてやはり判断力ということを相当力をつけないと対応できないという、そういうことなんではないかな。そういう意味では、市自身、市の職員の方の研修、そういう広い視野とか、そういうものが求められることではないかなと、そういうふうに受けとめられておられるのかどうかという点なんです、いかがでしょうか。

それから、和解金の250万円という、この金額はどういうふうに考えたらいいのかなというのが——双方の——確かに早く解決しなきゃいけないということで、市にとってはそのためにという思いもあるし、私らもそのことはよく、私自身もよくわかります。しかし、双方の合意だというだけでは何と説明していいのかなというのがなかなか説明し切れないなと。従来市はいわゆる買収金額だという考え方には一切立ちませんよという中で、和解金の考え方というようなところで買収にかかわる費用だというようなニュアンスのものは一切受け入れないという流れで説明をされていたわけなんです、そういう点からこの250万円というのはどういうふうに見たらいいのか、市としてはどういうふうに見ているのか、その辺の考え方といいますか、話し合いの結果だということはわかるんですけれども、そのことをどう評価しておられるかという点です。

それから、母子家庭、父子家庭の問題でありますけれども、663名ということで資格のある対象者が今回——になると、この条例によって。母子家庭、父子家庭という、こういう対象の方も市内にはかなりあるんだなということ

を数字として感じるわけなんです、今回の条例の全面的な入れかえによって、従来はどうだったのか。今回は 663、従来は 1,000 もあったのが今度 663 ということなのか、逆に前の数字から見るとふえたのかどうか、対象が広がったのかどうか。前の条例のもとでは対象になったけれども、今回の条例で漏れてしまうというような、今回の条例の改正によって対象でなくなってしまうというような、そういう逆転現象というものはないというふうに理解していいのかどうか。

以上、その点お伺いします。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） まず、行政手続法の関係でございますけれども、郵便で申請書類等が送られてきた場合、その到達についてでございますが、文書担当課におきましてその書類を受理し、市として了知し得る状態になったことをもちまして到達というふうに考えるということで、担当課の担当者にそれがわたった時点ということではございません。

それから、この行政手続法の多数の行政庁にまたがる申請についてのお尋ねでございますけれども、市自身の判断力が求められてくるのではないかとということでございますが、今までも市の担当いたします許認可事務等につきましては、慎重な対応をつけ、それについての市独自の判断を下してきたわけではございますけれども、今後とも研修の充実というものはおっしゃるとおり必要であろうかと思っておりますので、職場内あるいは職場外の研修等を通じて、許認可事務に携わる職員の資質の向上を図ってまいりたいというふうに考えております。

続きまして、和解金の件でございますけれども、和解金の 250 万円を市はどのように評価しているかとの御質問でございますが、高いかどうかの評価というのは大変これは難しゅうございますが、まず 6 件分、1,500 万円につきまして相続人が 25 人いるわけでございますが、1 人当たり 60 万円という額になります。また、1 件当たりの権利者が最多の人が 13 人ということでございますが、1 人当たり約 19 万 2,000 円ということになります。おっしゃいますように、早期解決を図るということから、双方の主張に相当な隔たりがあ

った中で所有権を移転したつもりはない、つまり売ったつもりはない。市の立場としては、その土地は昭和23年当時買収したものであるという立場で調定に臨んだわけですが、これだけの大きな隔たりのあります中で、双方の妥協点でございます1件当たり 250万円につきましては、やむを得ない金額ということで御提案申し上げます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 母子家庭、父子家庭の医療制度の今回の改正の上で、対象人数をまず申し上げますと、改正前は 428名、それが改正によって 663名、先ほど市長からお答えしましたけれども、235人の増加ということになっております。

それから、今回の改正に伴っての逆転現象といいますか、対象外という規定は一部ございます。例えば施設に入所する者、従来は適用除外で生活保護世帯ということのみであったものが、施設に入所する等によってこの子供たちが対象外になると。人数はさほど少ないんですけれども、そういった部分がございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 以上で20番議員神田守隆さんの質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎議長（山中金治郎君） ただいま議題となっております議案第57号乃至議案第66号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

議案の上程

◎議長（山中金治郎君） 日程第2、議案第67号乃至議案第69号の各議案を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

◎議長（山中金治郎君） これより質疑を行います。

通告はありませんでした。御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎議長（山中金治郎君） ただいま議題となっております議案第67号乃至議案第69号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

請願書の上程

◎議長（山中金治郎君） 日程第3、請願第8号乃至請願第11号の各請願を一括して議題といたします。

委員会付託

◎議長（山中金治郎君） ただいま議題となりました各請願は、お手元に配付の請願付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

議長の報告

◎議長（山中金治郎君） なお、この際申し上げます。

9月6日の議会運営委員会までに受理した陳情書は、お手元に配付の陳情送付表のとおり、所管の常任委員会に送付いたしましたので、御報告いたします。

延 会 午前10時22分

◎議長（山中金治郎君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(山中金治郎君) 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明14日から17日まで議案調整のため休会、次会は9月18日午前10時開会とし、その議事は、平成7年度各会計決算の審議といたします。

この際申し上げます。平成7年度各会計決算に対する質疑通告の締め切りは17日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第57号乃至議案第69号
- 1 請願第8号乃至請願第11号